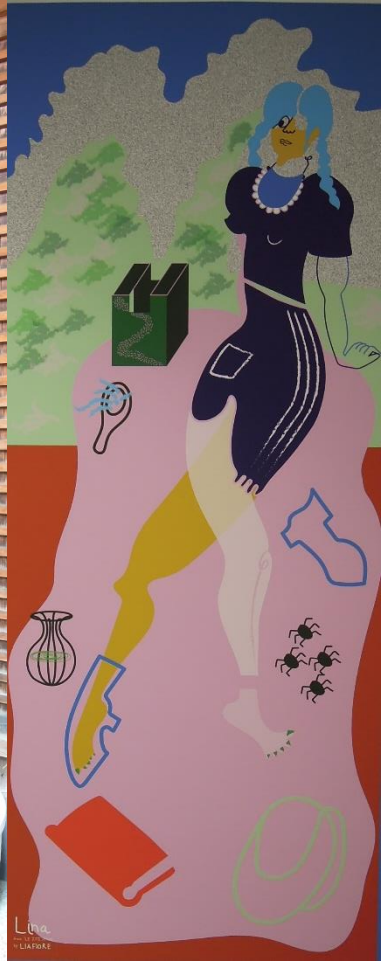




奈良町にぎわい通信



作品 ジュリア・フィオリスタ
アートディレクター 中野温子

奈良町にぎわいの家
町家美術館 Vol.5
「ソットサスの8人の女」



Vol.52

二〇一九・立秋〜処暑

発行
奈良町
にぎわいの家





喜壽園・小林さんによる奈良墨のお話



コストリカからのお客様
うまい！

奈良墨体験と
ワークショップ



七夕茶会・短冊に願いをかいて...

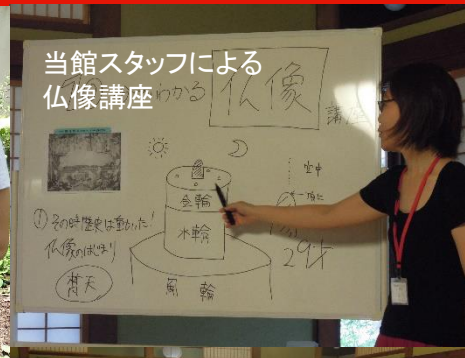


蔵・七夕展示(中村円)

奈良町にぎわいの家 7月のイベントから



喜多隆子先生による「やさしい短歌」



当館スタッフによる
仏像講座



皆さんの短歌作品から

朝顔の蔓の先端上へ上へ
のぼりゆきます青い空まで

ゴーヤ植え蔓の先端地に伸びて
あわてて支柱を立てる連れ合い



かまど体験

裏庭で収穫！
きゅうりも
トマトも
よく
とれた！



町家でネイチャーゲーム

虫の擬態を
学んでいます。



奈良町 施設巡りトーク～Vol.13「奈良市きたまち転害門観光案内所」

お話
事務局長
山口育彦さん



●施設概要

建物は元々、南都銀行手貝支店(1940年建築)として建設されたものです。その後、病院の寮や理容店として利用されていましたが、老朽化が進み、取り壊し計画が持ち上がりました。その時、地元から強い保存要望があり、奈良市が改修、平成25年5月に案内所として開所しました。設計は、岩崎平太郎(1893-1984)で、奈良県知事公舎や奈良女子大学佐保会館等、多くの近代和風建築を作った大和を代表する建築家です。施設内部は吹き抜けで広々とした室内空間となっています。「転害門前旧銀行跡建物活用協議会」がボランティアで運営し、観光案内は「観光ボランティアガイドの会・朱雀」が担当、地元の皆さんの地域への思いとこころざしによって、支えられています。

●施設の様子

1階には地元の時計商から寄贈された明治時代の大きな分銅時計が、地域の長い歴史を見守るかのようにあります。和室や2階の会議室など、イベントができるスペースもあり、町の様子がわかる写真等も展示しています。来年オリンピックですが、1964年東京五輪の折の聖火ランナーは転害門前の京街道を走りました。その時の写真がみつき、そちらも紹介しています。当時、ランナーを応援した地元の人たちの様子もわかり、こうした掘り起こしをはじめ、当施設は地域の歴史文化の発信拠点としての役割も大きいといえます。

●物語豊かな町

奈良時代に宇佐八幡神をお迎えした折、お旅所として神輿を下ろした、国宝・転害門。きたまちは、東大寺、聖武天皇陵、日本最初の四層の櫓をもった多聞城の跡など古くから歴史の大きな舞台となった地域として、また、近代では商人の町として財を蓄え、奈良の物流の要として大きな役割を果たしてきました。一方、身近な暮らしの風景にある祠(桜七所明神や佐保姫ゆかりとされる棚機社)など、いにしへの浪漫を感じる場所がいくつもあります。平安時代には勅祭として、大きな祭だった転害会は、史料からその豪華さがわかりますが、昨年、御神輿が新調され、今年は地元の人たちによって担がれます。こうした文化遺産の継承の拠点かつ、町の良さを広く知ってもらえる案内所として、様々な取り組みを続けたいと思っています。

(聞き手・文責 おの・こまち)

●開館時間

10:00～16:00

●休館日...木曜日

年末年始等

●連絡先 〒630-8206

奈良市手貝町54-1

TEL 0742-24-1940

町家美術館vol.5「ソットサスの8人の女」展

今号表紙の鮮やかなイラストは、8/11まで、つし二階～蔵で開催のイタリア人、ジュリア・フィオリスタさんの作品です。アートディレクションは奈良在住のデザイナー、中野温子さん。中野さんは、昨年イギリスから2人のアーティストを招いてくれた国際派です。鮮やかな色彩の8人の女性のイラストは、イタリアのデザイナーで建築家でもあった、エットレ・ソットサスの自伝からジュリアさんがイメージしたものです。ちなみに、ソットサスは、1917年生まれ。当館が建てられた年に生誕。にぎわいの家の100年とイタリアの巨匠の100年は、全く違うものですが、ジュリアさんの作品は、そんな交わりそうにもない二つの世界を結ぶかのようです。ジュリアさんのテキストには、ソットサスが来日した折、墨を購入した時のエピソードが紹介されていました。「(ソットサスがほしい墨は)どんな黒でしょう。」と店の人から聞かれるまで、彼自身、「黒色はただひとつ」しか存在しないと思っていた、とのこと。「黒」という色についての新たな発見が日本の「墨」にあったのです。奈良墨の産地としては、嬉しいエピソードでした。高校生が「きれい!」と写メしたり、「色」の世界を堪能する展示となりました。

ソットサスについて語るジュリアさんの映像がつし二階に。



奈良町にぎわいの家 二十四節気葉書 ～処暑～

いにしへの平城(なら)のみやこの宮跡に
処暑の夕風
邯鄲(かんたん)鳴けり

いにしへから続く
平城宮跡に処暑の夕風の中、
邯鄲(こおろぎの一種)が
鳴きました。



オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

事務局だより

2019 処暑

暑さと日本家屋

事務局長 藤野正文

残暑がまだまだ厳しい日が続きますが、二十四節気では立秋（八月八日）が過ぎて、暑さが峠を越える「処暑」（八月二三日）、早くも九月には大気が冷えてきて、露がで始めるころ「白露」（九月八日）に。今はまだまだ暑いですね。

熱中症は屋外ではなく、家の中にも発症するようです。暑い室内にいるうちに熱中症にかかるなど、約4割を室内で発症するケースがあると聞きます。日光によって溜め込んだ熱が住宅から逃げずに、夜間でも熱中症になる危険性もあるようです。

最近「遮熱」という言葉を聞くことが増えてきました。日本の家屋では、夏の昼間の日射のことを考え、庇（ひさし）や窓の外側での日除け（よしず）を用いた「遮熱」をしてきました。最近、庇のない家が増えてきているようですが、庇は雨対策だけでなく日射対策でもあるのです。夏に日傘をさして遮熱するように、家にも外側に日除けが有効ですね。

また、縁側は、夏季などに日の当たっている部分を障子や雨戸を使って締め切り、断熱空間を作り出し、その奥の部屋が外気温より涼しくなります。「屋根裏」や「つし二階」と呼ばれる

空間も屋根と部屋のあいだを構造的に断熱する役割を果たしています。一見、無駄な空間に思えますが、断熱構造を作ってきたのです。日本の家屋は、それなりに遮熱、断熱の知恵があったのです。ちなみに奈良町にぎわいの家の縁側は、縁側がありますし、また、瓦屋根の下にもう一つの屋根があり、そして天井があります。

8/4「親子で町家体験」
NHKユースで放送されました。



かまどの煙出しを見上げています。

「柿問答」裏庭にて

裏庭で枝を切っていると、離れの縁側から声が掛かることがあります。「大変ですね」から始まって「その枝はもつと下から切ってください。時には本職さんのアドバイザーも。先日にも素敵なご夫婦が柿に詳しい様子なので、間引くのを手伝ってもらいました。サササつと迷いのない手つきに、聞けば、柿の本場の東吉野の柿農家さん。かき氷店の予約待ちの間のご来館です。私たちスタッフは、ここぞ！とばかりに、剪定の仕方、肥料のこと等々、質問攻め。間引く実・残す実の見極め方は柿の向き、当館の木なら実は10個ぐらいが良いなど、一つひとつ答えてくださいます。その丁寧な人柄に触れ、ご夫婦の育てた柿を食べてみたくなりました。ところで今年は柿とユズが豊作、栗が8つ、みかんは多かったです。梅をがんばらねば。以上、裏庭報告でした！



奈良町にぎわい通信vol.52

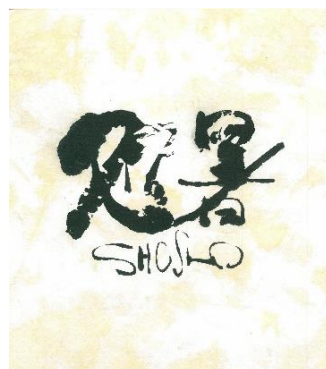
制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

書：逢香



奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



立秋



処暑

8/8~22 8/23~9/7

かなかなよ、しののめのどこで鳴くのか、
三つ四つ五十六十、木はまだ眠る

前登志夫